課題対応取組報告書

名称	昭和地域総合相談窓口
提出日	令和　7　年　5　月　26　日

カテゴリー （※主なものをひとつチェック）	☐	地域や専門職とのつながり等	☑	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（　　）		

活動テーマ	認知症の方や地域の方など、誰もが気軽に参加できる「集いの場」の構築を目指して　Part.2
地域ケア会議から見えてきた課題	○在宅生活が可能な時期に地域包括支援センター(以下「包括」という)や総合相談窓口(ブランチ)(以下「ブランチ」という)に相談が上がって来ず、重症化してから相談に来るケースがある。 ○早期発見・早期対応に向けたアプローチ（包括・ブランチの周知等）が弱い。 ○認知症に対する市民の知識や理解がまだまだ不足している。 ○繋がりのない高齢者が身近に集いやすい居場所が不足している。
対象	認知症当該者やその家族、地域住民、地域関係者、介護・福祉専門職等
地域特性	○南北に長い地域で、北部は新しいマンションや商店が多く、学校も多くあり、老若男女人の流れが盛んである。中部は大きな池や公園があり古くからの閑静な住宅地、南部は単身者向けマンションや文化住宅が多い。地域によって経済格差が大きい。 ○圏域内には3箇所地域の会館があるが、各会館ともに活動行事が減っており、集いの場が少なくなってきている。
活動目標	○認知症当事者やその家族、地域住民など、誰もが気軽に参加できる認知症カフェ（集いの場）を運営する。 ○認知症カフェを通じて、参加者同士のコミュニケーションの場だけでなく、気軽に相談できる機会を設けることで、孤立の防止や介護負担の軽減を図るとともに、早期発見・早期対応を目指す。 ○認知症に対する正しい理解を深める機会を作る。また認知症予防に繋がる活動をカフェで展開する。
活動内容 （具体的取組）	○令和5年9月に高齢者デイサービスセンターいくとくⅡにて、長池地域では初となる認知症カフェ（オレンジカフェいくとく２）を開設した。月1回の開催（毎月第一土曜日13時～15時）で、定員12名の小規模なカフェ。 ○参加者には飲み物と軽食を提供し、慌ただしくない落ち着いた雰囲気で、誰もが気軽にコミュニケーションができて参加者同士楽しく過ごせられるような環境を目指して運営している。 ○認知症や健康にまつわるミニ講座なども行い、認知症に対する正しい理解促進を行っている。 ○認知症予防の一環として、毎回参加希望の方には「折り紙教室」も行っており、認知症の方や折り紙が苦手な方にはスタッフが側につき、丁寧に対応している。完成した作品は自宅にも飾れるように内容にも工夫をしている。 ○介護に関することや認知症に関することなど、様々な相談内容をその場で対応している。
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	○認知症カフェを開設して、約1年半が経過するが、現在は平均10名前後参加して下さっており、少しずつ地域にカフェの存在が浸透してきている。また参加者や地域福祉コーディネーター等が地域住民を紹介して下さったりと毎回多くの方に参加していただいている。カフェを通じて自然な形で和やかな参加者同士の交流も生まれている。 ○認知症カフェを通じて、介護に関することや認知症に関することなど相談を受ける機会が増え、近隣で気になる高齢者を紹介して下さったりと、早期発見・早期対応に繋がり、孤立防止や介護負担の軽減を図ることができた。 ○認知症予防の一環としての「折り紙工作」では、認知症の方や折り紙が苦手な方でもご自身で作品を完成させる喜びを実感していだくためにスタッフがフォローしている。また、参加者同士でも助け合ったりしており、認知症の有無関係なく、自然な形でコミュニケーションが生まれている。
今後の課題	○オレンジカフェいくとく２は、定員12名と小規模なカフェの為、今後も慌ただしくない落ち着いた雰囲気で、様々な方との交流を楽しめるカフェを目標に、持続可能な安定した運営を目指す。また、新しい参加者が参加できるように今後も各関係機関と連携していく。誰もがいつ来ても楽しめる場「地域の集いの場」づくりを大切にしていきたい。 ○ブランチの周知や認知症への正しい理解については、地域レベルで見るとまだまだ弱い。今後は幅広い世代の地域住民に向けて、包括や区社会福祉協議会、地域関係機関等と連携し、取り組んでいきたい。

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター運営協議会開催日	令和　7　年　7　月　2　日（　水　）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☑ 地域性　☑ 継続性　☑ 浸透性・拡張性　☐ 専門性　☑ 独自性
評価できる項目（特性）についてのコメント ＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	認知症カフェの継続に携わり、参加者も一定数となり、認知症カフェが地域に密着・浸透している。昭和7ブランチとして、長く地域と密接な関係を築き、地域の課題に対しても積極的に取り組む姿勢がみられた。さらに、独自の情報誌を定期的に発行したり、ミニ講座を企画するなど、発想豊かに活動している。

課題対応取組報告書

名称	高松・文の里地域総合相談窓口
提出日	令和　7　年　5　月　17　日

カテゴリー（※主なものをひとつチェック）				
	☑	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（　　）		

活動テーマ	新たな相談窓口として周知をする。
地域ケア会議から見えてきた課題	地域住民にとってより身近な相談先として、総合相談窓口（ブランチ）（以下「ブランチ」という）の周知不足があげられる。また各地域の情報共有や課題抽出について協議していく場が必要である。
対象	地域住民、支援関係機関など
地域特性	高松地域：地域を大きな道路が分断していて南北で地域活動への参加率に違いがある。 文の里地域：昔ながらの一軒家が多い。会館が地域の真ん中にあり住民が活動に参加しやすい。 常盤地域：人口が多く高齢化率は低いが高齢者人口は多い。地域の会館が3か所ある。
活動目標	・地域包括支援センター（以下「包括」という）や地域にある事業所などと連携し、地域で行われている百歳体操などの既存の活動の場を定期的に訪問し、活動及び他機関の活動と組み合わせることで交流と相談どちらもできる居場所として機能を広げていく。包括と連携しながら小地域ケア会議が開催できるよう地域関係者や関係機関と相談していく。
活動内容（具体的取組）	・ブランチの周知活動と出張相談を目的に、地域で行われている百歳体操や食事サービスなど既存の活動の場へ定期的に参加した。また地域のイベント等にも積極的に参加し、幅広い世代と連携を図った。 ・地域交流と相談、どちらもできる場所を他機関の活動（認知症当事者の野菜販売）と組み合わせて行った。 ・ブランチ圏域で、地域関係者や関係機関、包括と情報共有し、地域について考える場として小地域ケア会議を立ち上げた。
成果（根拠となる資料等があれば添付すること）	・定期的に地域活動に参加したことでブランチの周知に繋がり、住民や地域関係者からの相談に繋がってきている。 ・講演会依頼も地域関係者から直接相談が入った。 ・他機関の活動と組み合わせた交流の場では、少しずつ相談が入るようになってきた。 ・小地域ケア会議を立ち上げたことで、地域関係者の声を聴くことができ、地域課題に取り組んでいく基盤ができた。 ・地域活動参加者から"嚥下に配慮した食事"に関する講演会をしてほしいと依頼があり、講師を選任し講座を実施した。
今後の課題	・周知活動は少しずつ成果が表れてきている。しかし相談の大半が包括を通じて入っているのが現状。地域活動の場に継続して参加することで地域住民と顔の見える関係性を構築し、地域の身近な相談窓口として機能していく。 ・地域活動に参加する顔ぶれが固定化しており、新たな参加者が増えるような取組が必要である。

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区ブランチ運営協議会開催日	令和　7　年　7　月　2　日（　水　）
専門性等の該当（※該当個数は問わない）	☑ 地域性　☐ 継続性　☑ 浸透性・拡張性　☑ 専門性　☐ 独自性
評価できる項目（特性）についてのコメント ＊今後の取組継続に向けて、区ブランチ運営協議会からの意見等を記載。	北部包括と協働して、地域へブランチの広報活動を展開し、小地域ケア会議を立ち上げ、地域課題に取り組む基盤を作った。その成果として地域住民や地域関係者からの相談も増えている。地域からの要望を受け、食事に関する講座を専門の講師に依頼し開催した。

課題対応取組報告書

名称	新北島地域総合相談窓口（ブランチ）
提出日	令和　7　年　6　月　19　日

カテゴリー （※主なものをひとつチェック）	☑	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（　　）		

活動テーマ	かなえる体操・出前相談
地域ケア会議から見えてきた課題	新北島・平林両地域共に集合住宅が多く、高齢化が進みひとり暮らしの高齢者が多い。地域との関わりも希薄になっており、地域からの孤立を防ぐ取組が求められている。
対象	地域住民
地域特性	築年数が古い集合住宅が多く、ひとり暮らし高齢者や夫婦共に高齢者世帯の割合が多い。近隣や地域とのつながりが希薄になっていたり、閉じこもりがちの高齢者が増加し社会参加の機会も少なくなってきている。
活動目標	フレイルや閉じこもりの予防として、自主的に参加できる地域住民向けのつどいの場を設け、顔なじみの関係づくりができる場を提供する。
活動内容 （具体的取組）	＜新北島地域＞ 日時：毎月第一火曜日　14：00～15：00 場所：市営新北島住宅第一集会所 内容：訪問看護ステーションの理学療法士による体操教室　＜平林地域＞日時：毎月第四火曜日　14：00～15：30　場所：UR南港前団地集会所　内容：訪問看護ステーションの理学療法士による体操教室及び体操教室実施後に出前相談を実施。
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	・かなえる体操は体力づくりや生きがいづくりの場となっており、毎月とてもにぎやかで和んだ雰囲気で開催することができた。平林地域では以前に参加して下さった地域住民にポスティングをすることで参加者が増加した。 ・平林地域の出前相談では介護保険に関する相談を受けた。
今後の課題	新規に総合相談を受けた際に声掛けをしたり、以前の参加者へポスティングをして参加者が減少しないように工夫したい。また、マンネリ化しないような工夫も必要と思われる。

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター運営協議会開催日	令和７年７月２４日（木）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☑ 地域性　☑ 継続性　☑ 浸透性・拡張性　☐ 専門性　☐ 独自性
評価できる項目（特性）についてのコメント ＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・長年こつこつと活動できている。 ・参加人数が増えてきているのは良いこと。 ・以前の参加者へのポスティングは、行きずらくなった人も嬉しいのではないか。

課題対応取組報告書

名称	加賀屋地域ブランチ
提出日	令和　7　年　6　月　9　日

カテゴリー （※主なものをひとつチェック）	☐	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☑	その他（　防災への取組　）		

活動テーマ	③地域住民に向けた防災・減災への取組
地域ケア会議から見えてきた課題	・南海トラフ大地震の可能性。 ・全国各地域で圧制している災害。 ・誰もが帰宅困難者、被災者になる可能性を持っている。
対象	高齢者を中心とした地域住民や、その家族
地域特性	昔ながらの長屋が並ぶ地域や高層マンション、集合住宅群が点在する地域である。 北側の地域は旧造船の町として栄えた時代があり、単身者が仕事を求め集まっていた。単身者用アパートが残っており、高齢化、経済的困窮、社会的生活の継続が困難な方等が多く住む。町会未加入世帯や、脱会地域もあり、住民同士のつながりの濃淡差がある。
活動目標	住民自ら防災、減災の意識を持つ。常に備える意識をもつ。
活動内容 （具体的取組）	・地域の集いの場で、防災グッズの整備のアナウンスや、チラシを作製した。 ・災害時に必要な備品の実演。 ・実際に手にして扱い方を体験した。 ・地域関係者と協働し、地域の防災訓練に参加、避難救護活動訓練を実施した。
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	・ご夫婦が、災害時持ち出し非常ボトルを自分で作る取組をしてくれた。 ・実際に簡易トイレの砂を使い、どの程度の量で固まらせることができるか、自宅トイレでの使用方法など、イメージを持つことができた。
今後の課題	・災害発生時の動き方、自宅避難の際に必要となる備品、安否確認の方法など、まだまだたくさんの確認すべきことがあり、今後も住民と共に備えの意識を持ち、準備していく必要がある。

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター運営協議会開催日	令和７年７月２４日（木）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☑ 地域性　☐ 継続性　☑ 浸透性・拡張性　☐ 専門性　☑ 独自性
評価できる項目（特性）についてのコメント ＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・委員としても体験してみたい。 ・区としては、危機管理担当保健師や防災担当の活動がある。高齢だけでなく難病・母子も含めて人工呼吸器や酸素療法利用者のチェックを行い電源確保等している。 ・被災時歯を磨けないと、誤嚥性肺炎等のリスクがある。口腔ケアが大事である。 ・海外出身者や障がいで言葉が通じにくい人を、どう支援するかも考えてほしい。 ・避難行動要支援者の個別避難計画が作成された後、どう扱われているのか気になる。

課題対応取組報告書

名称	白鷺総合相談窓口
提出日	令和　7　年　6　月　17　日

カテゴリー （※主なものをひとつチェック）	☑	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（　　）		

活動テーマ	地域支援機関との協働の中で「日常生活の困りごと」に注視し支援にあたる。 要支援・介護の「はざま」で生活されている方々への身近な相談窓口として活動していく。
地域ケア会議から見えてきた課題	・地域の高齢者がいつまでも自立した暮らしが営めるように、多職種連携のもとQOLの向上に繋がる支援が必要である。 ・地域コミュニティへの参加を促し介護・フレイル予防の視点で運動の機会の場を増やす必要がある。 ・医療、福祉に繋がっていない、地域との関係性が希薄なケースに対しての他機関連携のもと支援にあたる必要がある。
対象	・白鷺地域（今川・育和）の高齢者 ・地域福祉サポーター、町会関係者、地域住民、ケアマネジャー
地域特性	・今川・育和の2地域ともにボランティア活動、見守り訪問が活発で地域の福祉活動が活発であるが、町会に未加入のひとり暮らし高齢者などは地域との繋がりが希薄で閉鎖的な生活されている方もいる。 ・各町会単体での特色の大きさや、地域見守り機関の高齢化、地域全体での繋がりの強化が課題である。
活動目標	区内２地域包括支援センター（以下「包括」という）、その他関係機関との情報共有に加えて、地域コミュニティに参加し担当圏域の高齢者の経済・生活問題、介護サービス関連、介護予防等のニーズの把握に務める。
活動内容 （具体的取組）	・地域情報共有会議や個別地域ケア会議に参加し、多職種連携のうえ支援方針を検討した。 ・経済・生活問題、介護サービス、保健・医療サービス、予防関連の相談を多く対応した。 地域のコミュニティ（喫茶、体操、食事サービス）への参加（アウトリーチ）に伴い、総合相談窓口（ブランチ）（以下「ブランチ」という）への連絡、来所での相談に繋がった。 ・セルフネグレクト（ごみ屋敷状態・福祉、医療との繋がりが希薄）ペット問題ケースの対応など。 ・定期的に同法人の居宅介護支援事業者との情報交換、ケース検討会を実施した。 ・同法人施設内において地域行事（ACP関連/もしバナゲーム）を開催した。
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	・単身、高齢者のみの世帯への入退院支援からの施設入居支援、在宅復帰後のサービス介入など、前年度と比較して保健・医療サービス関連の件数が増えた。 ・定期的な地域情報共有会議、地域行事の参加を通してケース検討、支援方針の協議を図ることで高齢者等の実態把握、支援に繋がった。 ・同法人の施設内にて地域行事を開催したことで新たな集いの場の拡充と地域のニーズに特化した催事の検証に繋がり、次年度の継続開催に向けた取組に繋がった。
今後の課題	・包括との協働、連携をもとに、地域の個人商店や郵便局にパンフレットの配架を依頼、特に地域の福祉会館、区包括から分離している中野1.2丁目エリアへの周知と情報収集を図りニーズの把握に努める。 ・いわゆるビジネスケアラーからの相談にも対応できるようにメールでの相談受付、夜間帯の介護相談会の開催も検討していく。

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター運営協議会開催日	令和　7　年　7　月　１４　日（　月　）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☑ 地域性　☑ 継続性　☑ 浸透性・拡張性　☐ 専門性　☐ 独自性
評価できる項目（特性）についてのコメント ＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	地域に出向き、相談対応、ブランチの周知活動に務めている。夜間帯の相談受付やSNSでの相談対応は、就労や日中活動している若い世代が、親の相談をするのにしやすいと思うのでよい試みと考える。

課題対応取組報告書

名称	矢田東総合相談窓口
提出日	令和　7　年　6　月　13　日

カテゴリー （※主なものをひとつチェック）	☑	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（　　）		

活動テーマ	地域との連携を強化して早期相談につなげる
地域ケア会議から見えてきた課題	①認知症や精神疾患のある本人の介護をしている同居家族の負担増加 ②介護負担、ストレスが増加しても相談しない（家庭内での問題の抱えこみ）
対象	地域関係者（地域福祉サポーター、町会関係者、民生委員、地域住民など）、ケアマネジャー
地域特性	◆矢田東：矢田圏域では町会加入率が一番高いが、老朽化した文化住宅が高齢者向け住宅や賃貸マンションなどへの建て替えが進み、町会加入世帯、加入率ともに減少している。そうした中にあっても地域の見守り、毎月の友愛訪問は町会ごと工夫しながら継続している。 ◆矢田北：住宅街の広がる地域のほぼ中心に位置する会館には、平日の日中は地域役員が常駐されており、地域住民も相談等に行きやすい環境にある。
活動目標	積極的に相談することためらったり、何を相談していいのかわからず、相談しないという選択を取る人もいるため、地域の気づきの声を届けてもらえるよう地域関係者、地域住民と関わる機会を増やす。
活動内容 （具体的取組）	◆権利擁護事業の地域役員向け講習会を地域包括支援センターと協働し開催 地域の気づきから虐待通報、相談を行ってもらえるよう、権利擁護の視点を伝えることを目的とした権利擁護事業（高齢者虐待防止、成年後見制度の利用促進）の講習会を矢田北地域役員（町会長、女性部長、民生委員、地域福祉サポーター）向けに開催。 ◆地域つどい場や会合、会館への訪問 定期開催されているつどい場や会合への参加だけでなく、地域関係者が集う会館にも積極的に訪問し都度情報共有を行い、相談窓口としての役割や活動内容を理解してもらいながら、地域の気づきを聞く機会を増やすことで早期相談につなげていった。
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	◆年間相談延べ件数2,113件と増加しており、中でも地域福祉サポーターとの連携は221件、町会関係者、民生委員等の地域関係者とは146件と関係性の構築を行なえている。 ◆虐待通報に関しては、総合相談窓口(ブランチ)(以下「ブランチ」という)担当圏域内8件の虐待通報のうち、2件はブランチに入っており総合相談窓口としての役割を一定果たすことができた。
今後の課題	地域役員の方々も世代交代などで代わっていかれることがあり、関係づくりも完成する事はなく常日頃から行っていく必要がある。またブランチが地域に近い相談窓口としての役割を効果的に果たしていくために、ブランチの持つ地域の情報を活用して、地域と専門職をつなげていく関わりも行っていく必要があると考えている。

区地域包括支援センター運営協議会開催日	令和7年7月14日(月)
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☑ 地域性　☑ 継続性　☑ 浸透性・拡張性　☑ 専門性　☑ 独自性
評価できる項目（特性）についてのコメント ＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	総合相談窓口として相談件数も多いが、地域に積極的に出向き、関係機関と連携することで予防的支援につながっていることは評価できる。今後も引き続き対応をお願いしたい。

課題対応取組報告書

名称	矢田西総合相談窓口
提出日	令和　7　年　6　月　12　日

カテゴリー（※主なものをひとつチェック）				
	☑	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（　　）		

活動テーマ	地域高齢者との顔の見える関係性の構築に向けて
地域ケア会議から見えてきた課題	・判断能力の低下があり、キーパーソン不在の方が多い。 ・ADLが高い軽度者が多く、当事者に問題意識がないため、セルフネグレクト状態が長期化している。 ・家族や親族からの支援が困難な状況、苦しい経済的状況など複合的な課題を抱いているケースが多く、介護サービスだけでは対応が難しい。 上記の３点が複合したケースも少なからずあり、問題が複雑化する前に関わりを持てるようにする必要がある。
対象	矢田西地域の高齢者世帯、高齢ひとり暮らし世帯
地域特性	老朽化した集合住宅の住人の高齢化が進む一方で、老朽化した建物が取り壊された跡地にアパートや戸建て住宅が建ち、地域住民の世代交代が進んできている。 区の南東端に位置する地域の東側と北側の境界は幹線道路で南側は大和川に面している。低層住宅が多く所在するがスーパー・コンビニ等の店舗は少ない。
活動目標	地域の高齢者との間で顔の見える関係性を構築する。
活動内容（具体的取組）	総合相談窓口（ブランチ）（以下「ブランチ」という）周知のチラシをこれまでに関わった相談者を中心に年間延べ499件以上のポスティングを実施した。 老後の備えや終活などに役立つ情報提供を行うことと合わせてブランチ周知の目的で6月、9月、12月、3月の第３日曜に「せいりょう支援教室」の開催を企画、町会の回覧板（193班）・掲示板（30か所）を使用し告知した。 地域行事の場においてもブランチ周知のチラシを配布し、参加者にブランチについての説明を行っている。
成果（根拠となる資料等があれば添付すること）	年度内に4回開催した「せいりょう支援教室」に参加された地域の高齢者は延べ２名にとどまったが、うち1名の参加者からの新たな相談に繋がり、ブランチの活動内容の周知には一定の効果があったと考えられる。 矢田西地域の食事サービスの前に行っている転倒予防教室に毎月(12回)出席し、参加されている地域の高齢者(毎回約10名)に対し、ブランチ周知のためのチラシの配布とブランチについて説明を行い、ブランチのことを知ってもらうことができていると考える。
今後の課題	地域におけるブランチの知名度はまだ低いため、今後はこれまで接点のなかった地域住民や各種団体などに対してブランチの存在と業務内容についての更なる周知に努め、早期に相談できる関係を築いていく必要がある。

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター運営協議会開催日	令和　７ 年 ７ 月 １４　日（ 月 ）
専門性等の該当（※該当個数は問わない）	☑ 地域性　☐ 継続性　☐ 浸透性・拡張性　☐ 専門性　☐ 独自性
評価できる項目（特性）についてのコメント ＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	令和７年度より、ブランチの担当者が変更となっている。地域においてブランチの知名度はまだ低い状況にあるため地域の実状を参考にしながら支援をお願いしたい。

課題対応取組報告書

名称	あいりん地域総合相談窓口
提出日	令和　7　年　6　月　20　日

カテゴリー （※主なものをひとつチェック）	☐	地域や専門職とのつながり等	☑	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（　　）		

活動テーマ	ひとり暮らし高齢者の居場所つくり、社会参加支援
地域ケア会議から見えてきた課題	ひとり暮らし高齢者が多く、地域とのつながりや親族関係が希薄であり、社会参加への意欲が無い人も多い。 住居も３畳一間などが多く、自室でゆっくりすごせるような住環境でもないため、毎日外へ出てこられるが、居場所もなく、アルコールやギャンブルに依存する人も多い。 アルコールやギャンブルに依存することで、金銭管理が出来なくなっていく人も多くいる。
対象	あいりん地域高齢者
地域特性	ひとり暮らし高齢者、生活保護受給者や低金者が多い。 住環境は、簡易宿泊所転用型が多く、管理が行き届かない所も多い。 地域とのつながりや、人間関係は希薄である。
活動目標	ラジオ体操や百歳体操、ボッチャ等を定期開催。 社会参加への意欲を引き出せるような行事や居場所つくりを視野においた行事を市民館と共催企画する。
活動内容 （具体的取組）	毎週水曜日午後4時から仏現寺公園にてラジオ体操を実施し、平均12～13人の参加。 (7月～９月末までは熱中症対策として市民館3階講堂にて実施) 毎週木曜日午後3時から市民館3階講堂にて百歳体操を実施し、平均12人の参加。 毎月2回ボッチャを市民館3階講堂にて実施し、平均14～15人の参加。 毎月第３金曜日は映画上映会を市民館3階講堂にて開催し、平均20人の参加。 上記以外にも不定期で講座を開催し、食の健康講座、リハビリテーション講座、ほっこり運動会、カラオケ大会、忘れん坊教室（認知症講座）等、様々な分野で地域の高齢者の関心を引くものを考えて開催した。
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	１年間のラジオ体操参加延べ人数は288人、百歳体操延べ参加人数は311人、ボッチャ延べ参加人数は188人、映画上映会参加延べ人数は230人、不定期開催の講座の延べ参加人数は147人であり、居場所づくりとしての場の提供や社会参加の機会の提供、総合相談窓口(ブランチ)（以下「ブランチ」という)職員や市民館職員とのつながりなどが出来る事で、困った時にはいつでも相談出来るという安心感の提供も出来ている。
今後の課題	参加される方が固定化してきつつあり、それ以外の方への周知方法や社会参加意欲の引出し方法について、現状の講座開催だけではなく、新しくなった四角公園を利用するなど、場所を変えての行事の開催等の検討が必要。

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター運営協議会開催日	令和　7　年　7　月　16　日（　水　）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☑ 地域性　☑ 継続性　☑ 浸透性・拡張性　☑ 専門性　☑ 独自性
評価できる項目（特性）についてのコメント ＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	ひとり暮らし高齢者の多いあいりん地域で、ラジオ体操や百歳体操、ボッチャ等、住民の関心の引くものを開催し、社会参加の意欲を引き出しており、今後も活動を通してブランチ職員と相談しやすい関係づくりを構築することを期待している。

課題対応取組報告書

名称	成南地域総合相談窓口（ブランチ）
提出日	令和７　年　６　月　５　日

カテゴリー （※主なものをひとつチェック）	☐	地域や専門職とのつながり等	☑	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（　　）		

活動テーマ	認知症高齢者と地域住民の共生の場
地域ケア会議から見えてきた課題	・現在、商店街周辺で商売をしてきた住民が後期高齢を迎えている状況。国民年金が中心で介護保険サービス利用に躊躇する高齢者も多いことが判明。また、一軒家のひとり暮らし高齢者も多く、認知症になりやすい環境が存在。住み慣れた地域で長く暮らせるように、認知症になっても地域で暮らせるような取組の一環として「想い出教室」を開催。認知症状のある方でも楽しめ、音楽療法や回想法を取り入れ、認知症予防の拠点機能を構築。また、歌を歌うことで、嚥下機能の改善と維持を図った。地域の喫茶や百歳体操による周知活動を通して、新たな地域高齢者との交流が実現。それによって、相談件数も増加した。
対象	地域の認知症高齢者及び地域住民・民生委員
地域特性	①子供の頃から結婚してから等、長く地域で暮らしている高齢者が多い。 ②お祭りなど地域活動がまだ現存している。 ③長く商店街で商売をしてきた高齢者が多い。商売の成功で、一軒家を購入した高齢者が多い。 ④地方からやってきた生活保護を受給されるひとり暮らし男性も一定数存在。
活動目標	「想い出教室」を開催し、地域の認知症高齢者と地域住民の交流の場の形成。 昭和の懐かしい歌謡曲を歌唱し、口腔機能の維持と改善し、音楽療法と回想法で認知症予防に取り組む。
活動内容 （具体的取組）	【想い出教室】 日時　毎月第２火曜日13：30～15：00 場所　千本北　福祉会館 内容　生演奏による昭和歌謡の歌唱 対象　千本地域住民及び周辺地域住民 体制　地域住民　地域活動協議会　民生委員　介護事業所　総合相談窓口（ブランチ）職員 目的①嚥下機能の改善と維持による口喉のリハビリ ②音楽療法と回想法による記憶のリハビリ ③認知症状のある地域住民の居場所作りと活動拠点作り
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	認知症状のある高齢者の居場所作りと活動拠点形成を図った。地域で問題言動のあった認知症高齢者が地域住民の付き添いで参加。「楽しかった」と言って、現在も継続して参加している。また、近隣のグループホーム利用者の方も参加。歌詞カードなしで歌われていたのが印象的だった。民生委員・地域活動協議会・区役所市民協働課・社会福祉協議会・地域包括支援センター・介護事業所等も参加して下さり、皆で一緒に歌うことによって、共感力や協調性を再生し、孤独感や精神的な不安を軽減でき、地域住民及び認知症高齢者からは「良かった」という感想ではなく、「楽しかった」という主観的な感想を聞くことができた。さらに、連合会長・地域活動協議会会長と共に、「認知症サポーター養成講座」「ステップアップ講座」受講。その後、「ちーむオレンジサポーター登録証」を受理。また、千寿会（老人会）と連携し、敬老の日に出張歌謡教室を開催。来年度も依頼を受けた。
今後の課題	地域住民の認知症の理解不足という問題点が判明。認知症高齢者と地域住民の衝突の原因となっている。来年度は地域で「認知症サポーター養成講座」「ステップアップ講座」を開催し、民生委員及び地域住民の認知症の理解を深める方針。さらに、現在問題となっている軽度認知障がいについて情報提供し、チェックシートによって地域住民の認知症予防の関心を高める。

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター運営協議会開催日	令和　７　年　７　月　16　日（水）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☑ 地域性　☑ 継続性　☑ 浸透性・拡張性　☑ 専門性　☑ 独自性
評価できる項目（特性）についてのコメント ＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	地域アセスメントを丁寧に行い、認知症高齢者と地域住民の共生の場として、音楽療法や回想法を取り入れた「想い出教室」を開催し、住民や認知症高齢者の居場所や活動の拠点となり「ちーむオレンジサポーター」としても認定され、高く評価できる。

課題対応取組報告書

名称	南津守地域総合相談窓口
提出日	令和　7　年　6　月　5　日

カテゴリー （※主なものをひとつチェック）	☑	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（　　）		

活動テーマ	高齢化が進む地域への支援体制の構築
地域ケア会議から見えてきた課題	高齢者が多い市営住宅にて、地域の関係者の方からの相談は増加している。ただ、個人情報保護ということもあり、自治会の方でも情報が入りにくく、気づいた時には症状が進行した状態であり、その状態で相談機関に繋がる事が多い。早期発見・対応が出来るような仕組みづくりが必要。
対象	地域住民
地域特性	南津守地域は南北に長く、工場跡地にファミリー向けの建売住宅が増えた事で、年少人口の増加も見られる。ただ北部・中央部に市営住宅、南部にはワンルームマンションが多く、そこでの居住者はひとり暮らしの高齢者や、高齢者世帯の転入が多く、地域との交流が希薄で孤立化が目立つ。
活動目標	いつでも、誰でも何でも言える関係の構築。
活動内容 （具体的取組）	前年度で決まった出張相談会を３回開催した。事前にポスターや回覧チラシを作成し、周知活動を行う。相談会には、地域包括支援センターや総合相談窓口（ブランチ）だけでなく、生活支援コーディネーターや見守り相談室も協力していただき、２回目以降は障がい者基幹相談支援センターにも参加していただいた。相談会であった相談に対しては、素早く対応させていただき、必要に応じてその後も対応させていただいている。
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	相談対象者は少なかったが、障がい者基幹相談支援センターと連携が取れ、高齢者だけでなく障がいに関する相談も受ける事が出来、相談対象者の幅が広がった。
今後の課題	集会場を利用しての開催であった事で、近隣に相談している事が分かるのが嫌だという意見や、他者の目が気になるという意見があったので、今後は相談会としてではなく、地域の方が興味のあるイベントを行う中で、相談できるような体制を構築していければと思います。

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター運営協議会開催日	令和　7　年　7　月　16　日（　水　）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☑ 地域性　☑ 継続性　☑ 浸透性・拡張性　☑ 専門性　☑ 独自性
評価できる項目（特性）についてのコメント ＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	症状が進行した状態で相談に繋がることが多い中、生活支援コーディネーターや見守り相談室、障がい者基幹相談支援センター等とも連携し出張相談会を開催しており、今後は更に相談しやすいようイベントの中での支援体制の構築も期待している。

課題対応取組報告書

名称	梅南・橘総合相談窓口
提出日	令和７　年　６　月　20　日

カテゴリー （※主なものをひとつチェック）	☐	地域や専門職とのつながり等	☑	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（　　）		

活動テーマ	身近な集いの場の発展から、地域住民がつながるまちづくり
地域ケア会議から 見えてきた課題	・ひとり暮らしの高齢者が多い。特に男性で、地域とのつながりが希薄な人が多い。 ・地域全体としても高齢化が進み、住民同士のつながりも薄くなってきた。 ・地域とのつながりが希薄である事から日常生活に課題を抱えていても気づかれず、状態が悪化してから介入するケースが多い。 ・8050問題や老々介護など世帯で複合する課題を有するケースも有り、様々な方向からのアプローチが必要である。
対象	・圏域内地域住民
地域特性	・昔から住まう住民が多い一方、新しく移られてきた住民も多い。 ・地域関係者の高齢化が課題である上に、町会の加入率も低下しており次世代へのバトンタッチが難しくなっている。 ・高齢化率及びひとり暮らしの割合が高く、一度閉じこもってしまうとその後社会との接点を持つ事が難しくなる。
活動目標	・地域のコミュニティーから疎遠となっている男性の居場所づくり。 ・地域住民が気軽に集える居場所の継続・発展を通じ、地域関係者との連携を強化して行く。 ・住民同士が見守り、支え合う地域づくりへの支援。
活動内容 （具体的取組）	梅南地域での「おとこまえ」「いきいき」百歳体操 ・梅南地域での百歳体操は「おとこまえ」「いきいき」と２部制で、毎週水曜日午前に開催。 ・「おとこまえ」百歳体操は参加者の入れ替わりも有りながら、開催4年を迎える事ができた。参加者が自分の友人を誘ったり、ケアマネジャーやケースワーカーからの紹介等で参加に繋がり、介護予防のきっかけとなっている。 ・「いきいき」百歳体操は地域住民が自由に参加できる集いの場であり、毎回30人近くが参加。 ・今年も両取組にて月1回「おとこまえ」「いきいき」ボッチャくらぶを開催。2月に開催された西成区ボッチャジャガピー杯には3チームを編成し、合同での練習会を6回行い優勝を目指した。優勝には至りませんでしたが、「70歳代でも」「80歳過ぎても」「90が来ても」選手として大会に出場できた事を喜ばれていた。 松之宮地域での「スマイル」「百歳体操」 ・「スマイル」は自由な居場所として松之宮老人憩の家にて、毎週水曜日午後に開催。開催にあたりネットワーク委員と地域包括支援センター（以下「包括」という）、総合相談窓口（ブランチ）（以下「ブランチ」という）、区社会福祉協議会生活支援体制整備事業が協働。ゆったりとした時間と合わせて、地域で活動されるボランティアのアトラクションや健康講座、ボッチャなど多彩な取組を行ってきた。 ・松之宮地域「百歳体操」は地域ネットワーク委員とブランチ、包括、社会福祉協議会生活支援体制整備事業が協働し毎週金曜日午後に開催。実演で体操を実施し、本来の運動に少しずつ運動メニューを加えた形になっている。百歳体操終了後に転倒予防に着目した、上半身と下半身の運動も各週ごとに行っています。

成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	梅南地域での「おとこまえ」「いきいき」百歳体操　・どちらの参加者からも「運動する習慣がついて、毎日を楽しく過ごす事が出来る様になった。」「ボッチャも楽しみになっています。」等の声が寄せられている。また男性の参加者の中には、「話をする相手が出来たので、水曜日が待ち遠しい。」と喜ばれている方もいる。町会役員も何人か参加されており、体操の場がちょっとした意見交換の場となり、地域活動の活性化に繋がっているとの感想も寄せられている。 ・はぎのさと別館での取組が地域に浸透すると共に、ブランチの周知も更に進んできた。結果として令和６年度においても、はぎのさと別館へ来所での相談件数増に繋がった。 松之宮地域での「スマイル」「百歳体操」 ・「スマイル」では参加者の近況報告などのおしゃべりタイムに加えて、多彩な取組を行う事により「ここに来たら楽しいです。」等の声を寄せられている。またデイサービス等に行く程ではないが、閉じこもりがちになっている人への参加呼びかけの場ともなっている。 ・「百歳体操」では筋力運動に加えて、転倒予防についてのプログラムも実施。参加者から「以前より買い物に行く事が楽にできる様になった」「寝たきりにならない様に百歳体操は続けます」等の声がたくさん寄せられている。 「身近な集いの場の発展」に向けブランチも協働して行く中で、ブランチの役割が浸透。地域関係者及び、そこで暮らす住民一人一人と顔の見える関係づくりが行えた。
今後の課題	地域では高齢化が顕著であり、地域活動の場でも担い手の高齢化に拍車がかかっている。 令和６年度においてはボッチャを取り入れた世代間交流等を継続できた。 ブランチとしても課題解決に向けた協働を積極的に取り組んで行く。

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和　7　年　7　月　16　日（水）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☑ 地域性　☑ 継続性　☑ 浸透性・拡張性　☑ 専門性　☑ 独自性
評価できる項目（特性）についてのコメント ＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	男性は地域とのつながりが希薄であることが多いが、おとこまえ百歳体操は、男性の身近な集いの場となり、楽しく介護予防に取り組める。そこから発展し、地域住民同士がつながることに寄与し、ブランチへの相談にもつながっており高く評価できる。

課題対応取組報告書

名称	天下茶屋地域総合相談窓口
提出日	令和　7　年　6　月　13　日

カテゴリー （※主なものをひとつチェック）	☐	地域や専門職とのつながり等	☑	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（　　）		

活動テーマ	ひとり暮らし高齢者、高齢者夫婦の孤立防止の居場所つくり
地域ケア会議から見えてきた課題	当圏域では、ひとり暮らしの高齢者、または高齢者夫婦が多いが、子供が自宅近くに住んでいるケースが少ない。ケースワーカー、ケアマネジャーが付いていない高齢者に対し、地域住民から情報を取りながら、ひとり暮らしの高齢者、高齢者夫婦で、地域との繋がりが希薄な方を見つけ出し、地域参加を促すことで地域の見守りを行う必要性がある。（前任者からの引き継ぎ）
対象	・地域の高齢者（地域連合登録者75歳以上が中心） ・地域の支援関係者（民生委員、婦人会、大家、ケースワーカー）
地域特性	天下茶屋総合相談窓口(ブランチ)(以下「ブランチ」という)のある東部圏域では、65歳以上の人口割合41.2%(24.6%)、単独世帯71.5%、保護率22.5%(4.9%)、出生率3.3%(6.7%) ＊(　)内大阪市 ひとり暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯が多く、地域の行事、活動も少なく孤立し易い。
活動目標	・民生委員、ケースワーカー、東部地域包括支援センター（以下「包括」という）と連携し、地域と繋がっていない高齢者へ、ブランチの周知活動を行う。(個別訪問、チラシのポスティングなど) ・ケアマネジャー、大家に、ブランチ活動の周知と合わせ、百歳体操などの行事への参加の勧めの協力を要請する。
活動内容 （具体的取組）	【高齢者の社会参加機会の周知】 ・地域連合登録者(70歳以上）を中心に、個別訪問、ポスティングなどの周知活動を行う。 　計270名登録中、個別訪問150名(対面70軒・ポスティング80軒　＊夫婦2人＝1軒) ・地域内の大家より情報を貰い、孤立の可能性がある高齢者を同行訪問し聞き取りを行う。 ・ケアマネジャーより、連れ合いが亡くなる等でひとり暮らしとなり、孤立の恐れのある方の情報をもらい訪問。 ＊以上の対象者に社会参加を促すため、百歳体操の開催日を週1日から2日に増やし、手作り倶楽部という新たな行事を月2～4回開始した。
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	・地域連合登録者(70歳以上)の個別訪問で対面した方の中で、ひとり暮らし又は高齢者夫婦の方で、地域との繋がりが希薄で孤立化が懸念される約40名を確認した。 ・地域連合登録者の名簿で、死亡された方、家が見つからない方、転居されている方など、情報が更新できていない方もあり、大家、民生委員、近隣住民に情報提供の協力を頂く中、ブランチの活動をより深く認識して頂くこともでき、地域での共生の必要性を感じて頂けた。それにより、地域連合登録者以外の方で生活課題がある方へ、ブランチや包括へ相談に行くことを勧めて頂くなど、相談に繋がったケースがあった。 ・ケアマネジャーから地域行事を紹介して頂いた方は、初回参加率・参加継続率が高く、さまざまな理由でひとり暮らしとなられた方に、生活環境変化のタイミングで社会との繋がりを持って頂くことができ、家族の介護保険での繋がりが断たれた時点での孤立化を防げた。 ・従来からの行事参加者においても、新たな行事開始で、より社会参加の意識が高まり欠席率が減り、介護予防の意識が高まった。
今後の課題	・地域連合登録者個別訪問で対面した方のほとんどが、包括・ブランチの存在もしくは役割をご存知なく、さらなる周知活動が必要である。また、今年度は地域連合登録者への周知活動から始めたが、実際には登録者以外の方の孤立化がより高いと予想されるため、今後は地域住民全体への周知活動を考える必要がある。 ・初見での対応で救急搬送した方の中、伴侶の認知状態に問題があることで重篤に至っていたケースが2件あった。初見の対応がしっかりされていても、高齢者夫婦である場合、継続的な見守り支援で生活課題や心身の状態を把握する必要がある。 ・社会参加を促しているが、現状、行事への参加人数に限りがある。現状の使用可能な施設を使い、より多くの方に参加して頂ける行事を検討する必要がある。

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター運営協議会開催日	令和　7　年　7　月　16　日（水）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☑ 地域性　☑ 継続性　☑ 浸透性・拡張性　☑ 専門性　☑ 独自性
評価できる項目（特性）についてのコメント ＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	地域住民や大家、ケアマネジャー等と連携し、積極的にアウトリーチを行い、孤立しそうなひとり暮らし高齢者や夫婦世帯を支援につなげようとし、新たに「手作り倶楽部」を実施する等、地域の居場所づくりや介護予防に貢献することが出来ている。

課題対応取組報告書

名称	山王地域総合相談窓口（ブランチ）
提出日	7　年　6　月　13　日

カテゴリー （※主なものをひとつチェック）	☐	地域や専門職とのつながり等	☑	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（　　）		

活動テーマ	地域住民が参加できる多様な活動を創り、総合相談窓口との接点を増やしてゆく
地域ケア会議から見えてきた課題	1.ひとり暮らしで身寄りのない高齢者の支援では、複数の課題がある。支援の必要があるにもかかわらず長期に独力で生活され、困窮に陥っている事例も多く、多様な福祉サービスの活用が望まれてきた。 2.不適切な金銭管理や生活困窮では地域住民からの情報が重要であり、地域の困りごとの解決の糸口となっている。
対象	地域関係者、地域住民
地域特性	今年度は火災が4件あり死亡された方もおり、住まいを失った方の支援を行った。生活保護受給のひとり暮らし高齢者では、町会に入らず、身寄りがない人が多いため、個別訪問にむけて地域との協力を進めている。古くからの住宅が民泊にとってかわり急速に地域の様子が変化している。
活動目標	山王地域総合相談窓口（ブランチ）（以下「ブランチ」という）が、気軽に相談できる身近な窓口として「地域に根ざした居場所の一端を担う拠点」となること。地域住民が活躍する機会を提供し社会資源の開発を行い、社会的孤立の解消を目指す。
活動内容 （具体的取組）	不適切な金銭管理やセルフネグレクトともとらえられるような医療の拒否、ターミナル期支援が複数あり多職種連携の中での支援を行った。 ①「東部包括フリースクール」（以下「フリースクール」という）を活動の柱として位置づけてきた。とりわけ山王地域において出張フリースクールでは消費者被害、権利擁護の学習会を実施し35名の参加で好評を得た。 ②居場所づくりとしての「よりあい」には多様なニーズに対応するため、歌、手芸、芝居、絵手紙を開催した。 ③地域活動協議会と協働し山王ボッチャクラブと百歳体操の同日開催で定着している。ボッチャ大会にも参加が広がった。 ④「みどりカフェ」は地域住民ボランティアによる地域清掃の後、将棋、麻雀を用意し喫茶も実施し、麻雀には女性の参加がある。 ⑤ふれあい喫茶には地域住民の他、障がい福祉サービス利用者の参加、救護施設利用者のボランティア参加を得ている。焼き菓子を提供し平均25名の参加がある。 ⑥山王・飛田の各地域関係者へ山王、飛田各ふれあい喫茶内で相談窓口専用コーナーを設置していただいた。 ⑦「山王健康カラオケ倶楽部」を開催。社会福祉協議会、一般社団法人との協力の下地域外の参加も得ている。 ⑧「山王みどりキッチン」を開設。こども食堂の機能と高齢者の会食の場とし、多世代交流を図ってきた。
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	支援をつないだ後のケアマネジャーへの後方支援依頼に対応し、ACPについての助言、相談に対応した。 ①山王地域において出張フリースクールでは消費者被害の研修、権利擁護をテーマにした「けんりようご漫才」を実施し35名の参加で好評を得た。 ②手作り、うたごえ、お芝居など講師や演者も運営する側もボランティア参加による開催が出来てきた。多様なニーズに応え、延べ97名の参加を得た。 ③月２回の百歳体操と山王ボッチャクラブが定着し、平均18名の参加を得た。 ④9回開催。延べ76名の参加を得た。地域清掃には認知症状のある方の参加もあり、コーヒー、焼き立てパンを提供。居場所の人一つとして定着した。清掃の後の麻雀には女性の参加も増えた。 ⑤「ふれあい喫茶」は毎月1．２回開催。焼き菓子提供は好評を得、の延べ89名の参加を得た。 ⑥山王・飛田ふれあい喫茶の相談窓口の設置から地域の取り組みの周知、顔の見える関係性を形成した。 ⑦山王健康カラオケ倶楽部を８回開催。延べ114名の参加を得た。 ⑧「山王みどりキッチン」を８回開催。延べ559名の参加を得た。地域住民、高齢者や障がい者、救護施設、NPO法人のボランティア参加はの延べ6名となった。

今後の課題	引き続き関係機関との連携を強め、支援の質の向上に努めたい。 様々な企画を支援者との関係づくりの糸口とし、地域を巻き込みながら孤立解消に向けた支援につなげてゆきたい。 それぞれの企画に地域住民ボランティア参加を呼びかけて、支える側として活躍できる場を創造し「楽しい」と感じられる活動の場としてゆきたい。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 7 年 7 月 16 日（水）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☑ 地域性　☑ 継続性　☑ 浸透性　☑ 専門性　☑ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント ＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	多様な居場所や活動の場を創出し、特に「ふれあい喫茶」や「山王みどりキッチン」は参加者が多く、高齢者や障がい者、多世代交流の場としても機能しており、引き続き地域住民やボランティアと協働した「楽しい」と感じる取組を期待している。